

山弓連 平成23年10月

少年女子遠的優勝

国民体育大会山口大会（少年）を終えて

10月2日から3日間、山口県山口市で行われた第66回国民体育大会に選手：三枝琴音（巨摩）、宮下玲奈（富士北稜）、西中山温音（巨摩）、補欠：加藤葵（甲府商業）、望月裕奈（巨摩）、監督：中沢友二、コーチ：小林弘子、功刀清二の8名で挑み、遠的1位、近的7位、女子総合5位の成績を修めることができました。

ブロック大会の反省から各選手、9月の1ヶ月間、平日は学校で、週末は小瀬での練習に力を入れてきました。短い期間でしたが良いコンディションで山口入りすることができ、本会場の練習でも力を出すことができていました。特に遠的は昨年3位に入賞した先輩達と比べても、高い点数を残していたことから、期待できる仕上がりが具合でした。

競技は近的予選から始まり、1回目は11中、2回目は9中、24射20中で全体の2位で通過しました。三枝の8射8中も見事でしたが、ブロック予選で足を引っ張った宮下が7中と健闘しました。

2日目は遠的の予選・決勝が行われ、1回目は64点、2回目は51点、計115点で全体の6位通過でした。予期せぬトラブルもあり、本来の力が出しきれない予選でしたが、その中でも西中山が59点を一人で出したことが大きかった。

決勝トーナメント1回戦は76点で、準決勝では56点で競り勝ち、決勝戦は岐阜県、巨摩高校の2人にとって昨年インターハイの決勝で負けた因縁の相手。その強い思いを込めた三枝の1本目、黄色（10点）に吸い込まれるように矢が突き刺さり、続く宮下も同じく黄色に刺さり、会場の観客が騒然とする。次の西中山も中心に刺さり、観客が一斉に立ち上がりながら賞賛の声をあげ、一時会場全体が揺れている感覚がありました。1本目を終わったところで30-3と、相手にプレッシャーをかけ、圧倒的リードでしたが、その後点数が落ち、相手も高得点を出し、最後は分からない展開でした。結果、64-62で勝つことができ、少年女子としては24年振り2回目の優勝という成績を残すことができました。

3日目の近的決勝トーナメント1回戦は高知県と対戦し、序盤リードする展開でしたが、最後に追いつかれ、10-10の同中、競射で2-3で敗れました。順位決め競射でも健闘しましたが、最終的には7位という成績でした。

毎年、選手達は最後に素晴らしい結果と感動を与えてくれます。特に今年は選手、監督、コーチの信頼関係が保たれ、チーム全体の雰囲気が良い状態で試合に臨むことができました。三枝、西中山はそれぞれの進路に向けて本格的に動き出しますが、また成年でチャレンジできればと話しています。2年生の宮下、加藤、望月は来年の岐阜国体に向け、試合終了後は仮設会場で練習を始めていました。

チームは選手、指導者がお互いに信頼し合い、同じ時間を共有し、同じ目標を持ち、苦しみ、悲しみ、喜びを分かち合うことで大きく成長していきます。今後とも今年以上のチームが作れるよう、選手の育成に力を入れていきたいと思えます。

競技結果・近的予選24射20中、決勝トーナメント1回戦（12射）山梨県10中-高知県10中競射（2中-3中）・5~8位決定戦（6射）山梨県 5中6~7位決定戦（3射）山梨県 1中

遠的予選24射115点・決勝トーナメント1回戦（12射）山梨県 76点-栃木県 69点
決勝トーナメント準決勝（12射）山梨県56点-愛媛県52点
決勝トーナメント決勝（12射）山梨県64点-岐阜県62点

報告 少年女子監督中沢友二

研修会報告

山梨県地域社会武道指導者研修会に参加して

山梨県弓道連盟 佐野 弥生

10月8日（土）9日（日）の両日、天候に恵まれ秋晴れの中、（財）日本武道館・（財）全日本弓道連盟等主催の、山梨県地域社会武道（弓道）指導者研修会が開催され、全日本弓道連盟中央講師の近藤峯英先生（範士八段）、飯島千代子先生（教士八段）及び、地元講師の天野裕先生（教士七段）、標衣枝先生（教士六段）の熱心なご指導により、とても有意義な研修会に参加させて頂くことが出来た。

初日の8日には、矢渡しの介添えを仰せつかり、第二介添えをさせて頂いた。頭の中では理解しているつもりでも、実際に経験してみると、思い通りには行えず、所々で間違えている。飯島先生から講評を頂き、細かな部分であっても、日頃から意識して1つ1つの動作を基本に則り行うことの大切さを学んだ。また、

第二介添えは、蹲踞の姿勢を保つことも重要なことであるが、自分の身体を支えるだけの下半身を鍛える努力をする必要があることを痛感した。

矢渡し後は一手行射となった。受講生全員が行射し終えた後、両先生より講評を頂いた。「基本動作がお粗末」という厳しいお言葉であった。様々な機会に、基本動作については注意を受けているにも関わらず、そこからのご指導となり、貴重な講習時間を割く結果となってしまった。午前中の最後に、立ち方・座り方・開き足・矢番え動作について、午後の開始より、入退場のご指導を受けた。自らが意識しなければ、長年の癖となっている体配を直すことは出来ない。先生方の言われるように、「自分に厳しく、手抜きをせずやるべきことをすべてする。」を念頭に努力すれば、必ず身についてくるものと信じて日頃の稽古に取り組んでいきたい。残りの時間には射技指導の時間をつくっていただき、午前中の一手行射を参考にそれぞれの先生方から、個々にご指導して頂いて初日は終了となった。

9日は、飯島先生、標先生による、一つの射礼の演武から開始となった。演武見学後は、五段・錬士五段は持ちの射礼、六段・教士六段は一つの射礼の指導をして頂いた。全員が揃うことが射礼の基本であるが、息合いで動作しないために、ほとんどの立ちがバラバラな状態であった。また、膝を生かすことをしている者も少なく、何度も注意を受けた。やはり、1日目同様、基本が出来ていないことを痛感し、恥ずかしい気持ちになった。

午後は、1日目の続きの射技指導が行われ、最後に、一手審査方式の行射にて講習は終了した。

閉講式の際、近藤先生より、「次回の講習は、最低でも、最後の一手行射位から開始出来るように。昨日のようなことが無いように。」「心を磨き、技を磨き、身体を磨くこと。」「弓道をたしなむ意味、価値について考えるように」とお話があった。

2日間の講習では、近藤先生、飯島先生にご苦労をかけた分、学んだことは沢山ある。この2日間を無駄にしないよう、受講生各々が、しっかりと受け止め、「自分は出来ている」と思い込まず自分を見つめなおし、基本動作から、稽古し直すきっかけとならなければいけないと感じた。また、地域では、指導をしていく立場であることを自覚し、「指導者が、きちんとしていなければ、教わる下の者が可愛そう」とおっしゃった近藤先生の言葉を理解し日々の稽古に励んでいきたい。

女子大会 23年10月2日(日)

第26回県下女子弓道大会は、早朝より大勢の高校の先生や生徒さん一般の参加者で開場前にもかかわら

ず熱気がただよっておりました。参加者は、高校の部 17校33チーム、99名。一般は36名。

開会式は弓道連盟より会長、副会長のご列席をいただき身の引き締まる大会となりました。高校生は1、2年生ながらかなりの的高的中となり、個人優勝決定戦を6中者7人による射詰競射で行いました。日頃の稽古を思わせる落ち着いた射で巨摩高校の小松選手が4本目を射抜き見事優勝杯を獲得しました。一般参加者も成績向上で今後の女子大会への注目が高まったことと思います。最後に今回参加できなかった女子の会員にも来年は是非お集まりくださいますようお願いいたします。

成績・高校の部団体 24射・優勝、甲府西A 15中 2位・農林A 14中 3位・吉田A 14中
個人8射 優勝・小松智子6中 2位・依田朱希6中 3位・名取柚香6中
一般の部 優勝・小澤美香6中 2位・小泉茜5中 3位・伊藤恵子5中 (女子部 事務担当)

浅利与一義成公顕彰弓道大会

10月2日(日曜日)中央市与一弓道場において『第九回浅利与一義成公顕彰弓道大会』が開催されました。浅利与一義成公は平安時代の終わりに弓の名手として活躍したいわゆる「三与一」の一人で源平最後の決戦壇ノ浦の戦いの中源氏と平氏が対峙し、矢を遠くへ飛ばす腕くらべをする中で与一は他の誰よりも長い九尺(約270cm)の弓を使い、四町(約440m)先の武将を射倒すという強弓ぶりを発揮したと伝えられています。

浅利与一義成公ゆかりの里である中央市では、与一公祭り、与一公顕彰式典、与一太鼓、与一汁、与一味工房等浅利与一にまつわる行事や建物などがたくさんあります。その与一公祭りの一環として今年も80名の弓道愛好家が集い、日頃の練習の成果を披露し交流を深めました。四ツ矢二回計八射で競技が始まり優勝は7中、準優勝から5位までは6中者4名での競射により順位確定になりました。

優勝 酒井紀夫(都留)
準優勝 渡辺 誠(富士川町) 3位 斉藤光幸(甲府)
4位 北岡秀太(山梨大学医学部) 5位 桑原 良(富士吉田) 6位 上田靖人(中央) 7位 三浦孝一(富士吉田) 8位 土橋 亨(富士川町)
9位 篠崎 亮(中央) 10位大熊 隆(富士川町)
(報告・中央支部 支部長 青島)

「訂正」前号9月発行、県体育祭の記事のなかで、富士川町、依田しのぶ様の成績0中は誤りで、正しくは2中です、訂正してお詫びいたします。